

## 博士論文の内容の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 Acquah Stanislaus

Throughout Ghana's history, the country has followed a particular economic ideology, either socialism or liberal economics, yet continues to face many development challenges. One of Ghana's development challenges is the spatial inequality between northern and southern part of Ghana, whereby the southern part in comparison to the northern part of the country is relatively developed. North-south spatial inequality has been associated with how Ghana was integrated into the global economy as an exporter of primary commodities, with the period during SAP providing further evidence. This had made Ghana an aid dependent country.

One of the major development partners of Ghana is Japan, Ghana's top donor country before Ghana joined HIPC. In 2008, TICAD which is a framework of Japan's development assistance to African countries, began to shift focus from human development aid to promote trade and investment to drive economic growth. This almost coincided with Ghana's new lower-middle-income status. Ghana's lower middle-income status implies reduced ODA, and therefore the need to drive economic growth for development. TICAD's new approach has been described as reflecting the East Asian model of development in African countries. However, it falls short of some of the key components of the East Asian model of development that produced the East Asian "miracle", in the political, economic, and education context. What, therefore, are the implications of Japanese aid especially with regards to the north-south spatial inequality, in terms of how aid influences inequality within a recipient country?

By looking at the spatial allocation of Japanese aid projects in Ghana between 1999 and 2020, it is realized that more Japanese aid projects have been allocated to southern Ghana than the relatively deprived northern Ghana. However, the number of projects per population ratio was rather in favor of the north, except for economic development projects, where the ratio was in favor of the south, particularly from 2010 to 2020. Moreover, although human development aid projects generally have reduced, it was more to do with education projects and in the north. Through interviews conducted, it was identified that the global economic system contributes to generally more Japanese aid projects in the south than the north, and particularly economic development projects. This no doubt contributes to more economic growth in the south, which bolster southern Ghana to receive more Japanese GGHSP, because more economic growth in the south results in migration from the north to the south, making it irrational to allocate aid projects like GGHSP, if only fewer people will benefit, and also the ability to apply for more

GGHSP. It may seem that Ghana's development, including Japanese aid to Ghana, have not been much pragmatic, because they are influenced by the neoliberal global economic system which emphasizes economic growth and withdraw from human development. This is in view that, TICAD's focus on economic development projects in Ghana's context deepens spatial inequality, and its reduction of education aid projects can also lead to more inequality, mainly between the north and the south. This research, therefore, draws the awareness of the Japanese government, stakeholders in Ghana, and other donors that aid emphasizing economic development without also prioritizing human development, especially education, widens inequality.

## 論文審査結果の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 Acquah Stanislaus

### 1. 審査概要

#### 1) 予備論文審査

学位請求のための予備論文“Japan’ Support for Ghana’s Development since TICAD: In the Context of the Global Economic System”は、2021年9月22日に提出された。この論文に対して、9月30日の国際学研究科委員会で同研究科教員5名と外部委員1名の計6名からなる予備論文審査委員会の設置が認められ、10月15日に同委員会が開催された。

博士論文としての内容・構成・表現などについて各委員から意見を聞き、国際学研究科学位論文の審査等に関する申合せならびに評価基準（博士後期課程）に照らして博士論文としての水準を確認した上で、面接を実施して、教育的な観点から以下のような指摘を行い、改善事項も提示した。

#### 指摘事項

- 多くの文献を参照し、適切な構成で、図表なども活用しながら、一貫性のある議論がなされている。
- TICAD とガーナ国内の南北格差、TICAD と援助(草の根無償)の因果関係が、学術的に明確になっていない。
- アジアの発展モデルがガーナ移転されたというが、その定義や要素が明示されていない。また論文内で、対象地域がアジア、東アジア、時に東南アジアとブレもある。
- インタビュー対象者の選択方法が、論文のテーマとの整合性がない。
- ガーナの南北格差に対して、援助は効果的に影響し得るのか、またその必要はあるのか、疑問が残る。
- 日本の援助に対する提言は何か。
- 最後の提言で、インタビュー対象者のガーナ北部におけるビジネスへの移行を受けそのまま提言しているが、新自由主義な方針は、論文で批判してきたような格差につながり、北部における格差を拡大するのではないか。
- 植民地時代の歴史が今日のガーナの今日にどのような影響を及ぼしているか、債務がガーナの発展にどのような影響を及ぼしたか、記述がほしかった。
- 誤字脱字や学術表現となっていない点が散見される。

## 改善事項

- 因果関係やインタビュー選択を説明できない TICAD やアジア発展モデル等のマクロレベルの議論は背景として捉え、ガーナ国内南北格差や援助に関する分析を、論文として論証する部分と位置づけ、無理のない構成にすることが望まれる。関連して論文題目変更も視野に入れる。
- アジア発展モデルの定義や対象地域を明確化する。
- インタビュー対象者の選択方法を、論文のテーマと整合性を持たせて説明する。
- 国内格差に対する援助の役割について、論文の立場をより明確にする。
- 植民地時代の歴史が今日のガーナの今日にどのような影響を及ぼしているか、債務がガーナの発展にどのような影響を及ぼしたかに関して記載を加える。
- 提言については、日本の援助に対する提言も含めて論文の内容に基づいた筆者の提言が欲しい。
- 誤字脱字、口語表現の修正。

なお、予備論文提出時の条件としてすでに確認済みであるが、条件として承認されている以下の学会誌に掲載されていることも確認した。

学会名・学会誌名：『アジア・アフリカ研究』

論文タイトル：Government of Ghana, Development Partners and Private Investments in Ghana's Agriculture Sector: Toward Poverty Reduction

詳細：2021年、第61巻、第3号（通巻441号）、pp.26-48

以上を総合した結果、学位論文の審査請求に値するとの合意が得られた。

## 2) 学位論文審査

学位請求論文、予備論文審査の指摘を受け題名も変更し、“The Global Economic System and ODA: Ghana's North-South Spatial Inequality and Japan's Development Support to Ghana since TICAD(世界経済システムと ODA : TICAD 以降の日本政府の開発支援とガーナの南北格差)”として、2021年12月15日に提出された。2021年12月21日の研究科委員会で予備審査と同じ6名(外部委員1名)からなる学位審査委員会の設置が承認された。これを受けて学位審査委員会は2022年2月7日に開催され、第1回委員会、口述による最終試験、第2回委員会を実施した。

### (1) 第1回学位審査委員会

予備論文審査において指摘された上述の改善事項について、いずれも十分な改善がされていることが確認できたため、全員一致で最終試験を行うことにした。

## (2) 最終試験

最終試験は、第1回学位審査委員会に続いて行われた。最初に筆者 Acquah Stanislaus 氏より、予備審査の指摘事項や改善事項に基づいた修正について、説明がなされた。具体的な変更は以下の通りである。

- TICAD とガーナ国内の南北格差、TICAD と援助(草の根無償)の因果関係が、学術的に明確になっていないという指摘に対して、因果関係やインタビュー選択を説明できない TICAD やアジア発展モデル等のマクロレベルの議論は背景として捉え、ガーナ国内南北格差や援助に関する分析を、論文として論証する部分と位置づけ、各章を再構成し、論文題目も変更した。
- アジア発展モデルの定義や対象地域について、明確化した。
- インタビュー対象者の選択方法を、論文のテーマと整合性を持たせて説明した。
- ガーナの南北格差をはじめ、国内格差に対する援助の役割について、論文の立場をより明確にした。
- 植民地時代の歴史が今日のガーナの今日にどのような影響を及ぼしているか、債務がガーナの発展にどのような影響を及ぼしたかに関して記載を加えた。
- 提言については、日本の援助に対する提言も含めて論文の内容に基づいた筆者の提言が加筆した。
- 植民地時代の歴史が今日のガーナの今日にどのような影響を及ぼしているか、債務がガーナの発展にどのような影響を及ぼしたか、記述を加えた。
- 誤字脱字、口語表現を修正した。

これら変更については、事前に指摘事項・修正事項の対応表でも提示された。また、提出後の誤字については、正誤表も事前に共有された。

学位論文審査委員会委員からは、予備審査における指摘事項や修正事項の変更を確認・評価した上で、以下の点について質疑・指摘・コメント・提案がなされ、Acquah Stanislaus 氏より丁寧に回答された（→以下はその概略）。

- インフォーマントのインタビューからは、TICAD や政府援助に関する影響について、どのような示唆が得られたか。  
→ インタビュー回答者から、経済開発援助を重視するような言及もあった。
- 論文においてガーナの南北格差と援助の関係、経済開発に対して人間開発プロジェクトについて仮説として焦点を当てているが、他の要因（政治、人間開発の中でも教育と保健分野等）も密接に絡まっているのではないのか。  
→ 論文には十分に言及できなかったが、指摘通り、さまざまな要因が関係している。
- 東アジアの経験で国内貯蓄が重要だと思うが、論文での指摘が少なかった。  
→ 先行研究で認識しているが、論文では中心的に扱えなかった。
- 南北の格差を是正するような提言があってもよかったかもしれない。
- 債務に関して、ガーナは日本や中国に返済の目途はあるのか。

→既に HIPC 国として債務を削減され、中所得国になったため、返済するしか道がないために、ガーナ政府はさまざまな税制を導入している。

- 東アジアの経験において、ガーナ政府が最重要視している観点は何か。  
→投資を重視している。
- 発展のためには、まず経済的に豊かなガーナの南部に援助・投資をし、その豊かさをもって、ガーナ政府が北部を豊かにすればよいのではないか。  
→南部が経済的に繁栄することによって、北部から労働が吸収され、ますます格差が広がる問題点と、ガーナ政府が必ずしも北部を豊かにする政策を実施しているわけではないことが問題である。
- 今後の研究展開として、北部を含む内包的な発展のために、どのようなプロジェクトが効果的であったか、それらを研究することによって、バランスの取れた発展の道筋がみえるのではないか。  
→実際に、いくつか成功しているプロジェクトもあるので、今後、そのような研究もしたい。
- 論文のタイトルに関して、グローバルな新自由主義経済システムが ODA 政策に与えた影響が、どこまでガーナ国内の南北格差の促進要因となっているかについては、更なる検証が必要であるとの指摘があった。

以上の質疑・指摘や提案の多くは、本論文の評価を損なうものではなく、今後の研究の展開を期待する観点のものがほとんどであった。

### (3) 第2回学位審査委員会

論文審査および最終試験での Acquah Stanislaus 氏との質疑応答の結果から、学位論文審査委員会委員から、予備審査における指摘事項・修正事項をすべて真摯に受け止め、大幅かつ十分な改稿を行った結果、各章から提言まで一貫した論理的な構成となっていることが高く評価された。博士後期課程の学位論文の審査等に関する申合せと論文評価基準に照らして、学位論文〔博士（国際学）〕の要件を満たしているとの結論に達した。

## 2. 審査結果

以上により、本審査委員会は、Acquah Stanislaus 氏の提出した学位論文が博士（国際学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。